

2011 年 10 月 31 日

ガルダ・インドネシア航空

2015 年に向けた包括的な経営戦略についての記者会見を開催

TYOGA-16-OCTOBER /11

2011 年 10 月 11 日(火)、本社(ジャカルタ、インドネシア)にて、最高経営責任者エミルシャ・サタルは 2015 年に向けた包括的な経営戦略についての記者会見を行いました。

ガルダ・インドネシア航空では、2005 年から 2010 年までを「ファースト・ジャーニー」と位置付け、経営改善に取り組んできた結果、2007 年に 60 億ルピアの純利益を計上。以後 2010 年まで 4 期連続の黒字を達成しました。また、保有機材数及び運航便数を増加し、乗客数は 9,300 万人から 12,500 万人へ増加しました。2009 年にはスカイトラックス社(イギリス)から 4 スターの認定を獲得し、また、2010 年には同社より『The World's Most Improved Airline』(世界で最も改善された航空会社賞)を、アジア太平洋センター(CAPA、オーストラリア)より『Airline Turnaround of the Year』(サービス満足度調査第一位)を受賞することができたと言いました。

2009 年からは、『ガルダ・インドネシア エクスペリエンス』をコンセプトとしたサービスの改善に着手し、ご利用いただくお客様に、ご予約からご搭乗後までの 28 の段階で、インドネシアの素晴らしさを五感で感じて頂けるようなサービスを展開。よりユニークでより特別なガルダ・インドネシア航空ならではのサービスを継続していくとしました。

そして、インドネシア証券取引所(BEI)に株式を上場した2011年から2015年を「セカンド・ジャーニー」とし、ガルダ・インドネシア航空の新たな取り組み「クオインタムリープ戦略」の実施を通して、売上や認知度を世界的水準へと引き上げる方針を示しました。それを実現するために、「国内線」、「国際線」、「LCC」、「機材」、「ブランディング」、「経費」、そして「人材」を7つの柱とし、拡大する国内需要の取り込み、プレミアム層の取り込み、ローコストキャリアを活用してのバジェットトラベラーの取り組み、GAブランドの確立、経費の効率化、人材の有効活用をそれぞれの目標とし、2014年までにはスカイトラックス社より5スターエアラインの認定獲得を目指すと言いました。また、2012年にスカイチームへ正式加盟予定であることと合わせて、日本就航50周年にあたる同年に羽田線就航を計画していることを発表しました。

【2015年度までの数値目標】

	2010	2015	伸び率
機材数	89	154	+73%
機齢 (年)	8.1	<5	-59%
乗客数 (人)	12.5mio	35.2mio	+182%
便数/週(便)	1,219	2,316	+ 90%



写真左より、エリザ・ルンバントルアン財務担当筆頭副社長、エミルシャ・サタル最高経営責任者、アグス・プリヤントサービス担当筆頭副社長、ブジョプロト コーポレートコミュニケーション担当副社長

<本リリースに関する問い合わせ>

ガルダ・インドネシア航空 マーケティング部 児玉・篠

【E-Mail】 tyock@garuda-indonesia.co.jp

<報道関係者からのお問い合わせ先>

ガルダ・インドネシア航空 PR 事務局 高島・與芝 (株式会社プラチナム内)

【E-Mail】 garuda@vectorinc.co.jp 【電話】 03-5572-6073